

やまたらけ

YAMADARAKE

AUGUST
No. 18
2006

Arakura-Ginza History

新倉銀座物語

早川町新倉。世帯数が百に満たない集落であるが、昭和20年代末から昭和40年代にかけて、旅館、映画館、パチンコ屋、飲み屋、その他魚屋や雑貨屋等々が立ち並び「お町」で、その賑わいは新倉銀座と称される程であった。

当時の日本は、戦後の復興期を乗り越え、高度経済成長の真っただ中。そのような時代の要請を受け、早川町では林業や発電所の建設が盛んであった。早川の水は切り出され、都市部の住宅に。早川の水が生み出す電気は京浜方面に送電され、工場や家庭のエネルギー源に。

産業は人を呼ぶ。木を切る人、運び出す人、発電所の工事をする人、そのための道路を造る人…。人は人を呼ぶ。仕事に携わる人の家族、彼ら相手に商売をする人…。地元住民に加え、東京電力の社宅に暮らした人々や飯場にいた工事関係者などの、日々の生活から娯楽に至る需要をまかなっていたのが新倉銀座だった。

今回のやまたらけでは、新倉の最盛期とも言える昭和34、35年頃にスポットを当て、当時の街並みを再現。山の中に現れて消えた「銀座」を巡るエピソードと共にお届けする。

【写真】春祭りで新倉銀座を練り歩く神輿。昭和40年代末。（撮影、望月賢明）

町のホットニュース！

重要伝統的建造物群保存地区 赤沢宿に若山牧水の歌碑が建立！

雨をもよほす雲より落つる
青き田ざし山にさしみて水恋鳥の声
花らざき山あざさめの濃き藍の
いろぞ澄みたり木の蔭に咲きて

1926年6月16日、若山牧水は身延山を越え、赤沢のえびす屋に泊まり、翌日、七面山に登る道中で31首の短歌を詠みました。

この史実を残そうと、赤沢宿に、若山牧水の歌碑を2基建立し、6月17日、牧水のご親族もお招きし、除幕式を行いました。

碑は、赤沢宿のメインストリート・石畳の最上部と、大阪屋の下にあります。その歌から、牧水の見た赤沢が今もここにあることが分かります。



早川町制50周年記念事業 南アルプス邑早川 写真コンテスト開催決定！

早川町役場では、町制50周年を記念し、南アルプス早川写真コンテストを開催します。

今回は、早川町の日常の暮らし、自然景観、文化財、伝統的業祭事など、四季を通じた町の風景写真が対象となります。最優秀賞（早川町長賞）には、賞金3万円も用意していますので、みなさんのお気に入り一枚をぜひご応募下さい。

なお、応募期間は、来年の9月1日から30日です。まだずいぶん先ですが、これから一年かけてじっ



くりと早川町のいい風景を狙ってください。

詳しくは、早川町役場産業課観光・交流担当まで、お問い合わせ下さい。

～お問い合わせ～
早川町役場振興課
☎0556-45-2511

今春、早川町に住みついた「地球と遊ぶ」芸術家 山梨県立美術館に、木村崇人展を見に行こう！

今年の4月、また早川町に新たな仲間が加わりました。「地球と遊ぶ」をコンセプトに活動続けるアーティスト、木村崇人さんです。

山梨県民になったとたんに、山梨県立美術館からも声がかかり、8月9日から9月24日まで、個展を開催することになりました。今回、見せてくれるのは、「木もれ陽プロジェクト」という作品。もし、太陽が星の形をしていたら…世界中は星のこもれびで満ち溢れます。そんな夢のような現象を木もれ陽ドームを使って表現します。会場の床に落ちる一面の星のこもれびを楽しんで下さい。

早川町
楽しいよ～！



木村さん一家

8月9日(水)～9月24日(日)
山梨県立美術館
木村崇人展『木もれ陽プロジェクト』

入場無料
開館時間／午前9：30～午後5：00
休館日／毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)
主催／山梨県立美術館
会場／美術館エントランス・ホールGALLERY ECHO



新潟県妻有地域(十日町市周辺)でもやります！

7月23日(日)～9月10日(日)

大地の芸術祭
越後妻有アートトリエンナーレ2006
木村崇人『星の木もれ陽プロジェクト』

詳しくは<http://www.echigo-tsumari.jp>をご覧ください。
ホームページ内のイベントカレンダーに日程時間などの詳細が載っています。また、ホームページ内の参加作家2006年度に、作家紹介も載っています。

9
2-3

やまだらけツアー第15弾

幻のヤマトイワナを追え！パート2

ツアー、イベント情報

好評につき、今年もこのツアーを開催します。目指すは、幻のヤマトイワナ！このイワナは南アルプスの奥深くに生息し、また他種との交配が進み、なかなか純血種には出会えません。そんな神秘性と野性味を兼ね備えた魚を見てみませんか？初日は、リニューアルしたやまめびあで腕試しを行います。



日時／9月2日(土)午後2時～9月3日(日)午後4時頃

集合場所／やまめびあ駐車場

参加費／大人16,000円(会員15,000円) ※一泊三食、入漁券付き

定員／10名(要申込、先着順、締切8月25日)

※10歳以上70歳未満の健康な方で、釣り場の秘密を守れる方。

備考／渓流の奥深くに入りますので、装備は万全を期してください。

渓流シューズ、短い長靴、長袖、長ズボン、帽子、手袋、釣具等持参

【一日目】

14:00 やまめびあ 集合

14:00～16:30 やまめびあで渓流釣り

17:00 ヴィラ雨畑 着

18:30～20:30 夕食、座学、翌日の打合せ

【二日目】

07:00 朝食

07:30 ヴィラ雨畑 発

08:30～15:30 渓流釣り、昼食

16:00 解散

～申込先～

やまだらけ編集部 ☎0556-45-2160 ギャラリー・オゴン

10
7

やまなし「山の日」10周年記念イベント

初秋の自然観察 ～秋の渡り鳥、鳴く虫、植物にふれる一日～



今回観察するもの

鳥:ヤマガラ、カワラヒワ、キツツキの仲間、オオルリ
虫:カンタン、キリギリス、エンマコオロギなど

山梨県が、8月8日を「山の日」と定めてから10年。それを記念して、県内各地で山梨の山や自然に親しむ記念イベントを開催することになりました。この観察会は、その一環。今回は特別に参加費が無料です！

日時／10月7日(土)午前10時～午後3時頃

集合場所／南アルプス県野鳥公園駐車場

定員／20名(要申込、先着順、締切10月2日)

備考／お弁当、飲み物、お持ちの方は双眼鏡、雨天時はカッパ

～申込先～

南アルプス県野鳥公園 ☎0556-48-2288



今年もこの季節がやってきました！

早川町森林組合の原木栽培まいたけ

南アルプスの山中で育てられたまいたけは名前のとおり、見つけた人が嬉しさのあまり舞い踊って喜びたくなるほどの味と香りがします。

その中でも森林組合のまいたけは露地栽培のため、おいしさが際立って違います。肉厚で重量感があり、シャキシャキとした歯応えがあり、まいたけ本来の味と香りを十分に楽しめ、きのこの女王と呼ぶにふさわしい気品を感じさせる一品です。ぜひ、この時期限定の貴重で上品な風味をお試しください。

料金／2,700円+送料1,000円

内容／原木露地栽培マイタケ1kg

締切／9月29日(金)

発送／9月下旬から注文順に

※天候に左右されやすい商品のため、発送時期が遅くなることもございます。

支払方法／商品と一緒に請求書をお送りします。指定の金融機関にお振り込み下さい。申込者と発送先宛先が異なる場合は、申し込みの際にその旨お話し下さい。



～申込先～

やまだらけ編集部
☎0556-45-2160

早川旬の直送便

新倉銀座探索マップ

新倉のすぐ上流には、大正12年竣工の東京電力早川第三(早三)発電所がある。昭和20年代末、西山発電所が完成し、その水を使って発電するため新早川第三発電所、新早川第一発電所(早川町榑坪)の建設が進められた。新早三で使った水を、新早一で使うために、川に流さず山の中の送水管を通ず大工事が行われた。昭和34、35年ごろには、この建設作業に携わった人たちが山の中の飯場に大勢暮らしており、新倉に買い物などに降りてきていた。地元住民、東電関係者もいて、賑やかだった時代の新倉を、さあご案内!!

豪華二本立て 新倉の映画館

新倉銀座を語る上で忘れてはいけないのが映画館。といっても何日かにいっぺんの興行で、その前には家々の壁などにポスターが貼り出され、何月何日上映!と宣伝した。実は当時、青森街道の向こうの下湯島にも映画館があった。そこで、新倉と下湯島で、同じ日、同じ時刻に違う映画を上映する。その映画が終わったら大急ぎでフィルムを携え新倉と下湯島の中間地点まで単車を飛ばし、お互いフィルムを交換する。その後大急ぎで館に戻り、二本目の映画の上映を始める。フィルム一本借りるお金で二本立てのお買い得作戦なのだ!

しかし、中には上映時間の違う作品もあり、片方は終わったのに片方は上映が終わらず、観客がイライラ。なんていうこともあったそう。現在でも建物が残っているが、そうと知らなければただの古びた倉庫に見える。



早川町郷土資料館に残されている、当時のポスター。主演は若山富三郎。



大正時代に開業。上は大正時代に作られた絵葉書。看板にはアルファベットが書かれている。東海紙料(現東海パルプ)株式会社井川山林事業所の定宿にもなっていた。

仕事にも登山にも 新倉の旅館

最盛期、新倉には浜田屋、三保屋、川口屋、ます屋という四軒の旅館があった。戦前、発電所の第一期の工事が行われていた頃から新倉銀座に旅館が建ち始め、工事関係者、林業関係者、そして登山客らに利用された。旅館の中には、こっそり女性を雇っているところもあり、警察が来たとき身を隠す穴まで開いていたという。今はどの旅館も営業をしていないが、建物や看板など、往時の姿をしのぶことができる。



川口屋(写真上)の正面玄関。磨りガラスに屋号が書かれていて美しい。三保屋(写真左)は、植木に囲まれたアプローチが、旅館であった頃を思わせる。入り口には、「旅館 三保屋」と書かれた玄関灯がある(写真左)。



藤屋の二階。富士山の細工模様が美しい窓。ここで当時、一体どんな話がされていたのだろう。



昭和15年にバスが通るまで、新倉-早川橋にはトロッコが通っていた。ここから先、西山方面へ行く人は、新倉で人力車やトロッコに乗り換えをしていた。

伝付峠の向こう側に社有林を持っていて、物資の運搬などの基地として事務所を構えていた。新倉の人たちが駄賃背負いをしていた。

せぎ(水路)の水を引いて、新倉の人が大きな鯉を飼っていた。もちろん食用!

賑わう町に欠かせない
居酒屋・料亭・キャバレー

ここ新倉銀座にも何軒かの飲食店があり、勿論お酒も飲ませてくれた。はるみは、カウンターと座敷のある飲み屋で、女性従業員が大勢いた。喧嘩もよくあったとのこと。そんな時は巡査の登場である。バス停向かいの店は、バス待ちの人で賑わった。川長は、ウナギも出す居酒屋。一軒の建物を貸本屋などと共有していた。そして「藤屋」は板前さんを抱える料理屋で、二階の座敷は、東京電力など企業の偉い人が来た時に接待に使ったという。

藤屋の建物は今も残り、さんの細工の細かさをみると、なるほど本格的な料理屋だったのだろうと納得がいく。



新倉銀座の名付け親
名物・サービス屋商店

お店のひしめき合う新倉に、建物の中に大きな岩が生えているという一風変わった雑貨屋さんがあった。鍋釜、たらいなどをすぐに取り寄せてくれるというサービス屋のいいお店だった。そう、その名は「新倉銀座三丁目 サービス屋商店」。これは、お店が配ったマッチに書かれていた宣伝文句だ。これを見た地元の人たちの間では、「この店が三丁目じゃうら家は、何丁目すう?」と非常に話題になった。それから、非常に話題になった。それから、非常に話題になった。新倉のメインストリートに新倉銀座と呼ぶことが定着したのである。

長屋風の一般社員の住宅や、ちょっと大きい幹部向け住宅が建っていた。運動場やテニスコート、弓道場まであり、「社宅区」を形成していた。



残念ながらすでにお店はないが、今でも大きな岩だけは変わらずに空地の一角に陣取っている。



なんでも、応援に来ていた巡査は柔道の猛者で、夜の飲み屋で喧嘩などが起こると、単車で駆け付けて仲裁をしたという。

警察官も応援に 警備派出所

当時の新倉の賑わいは、発電所の工事にやっていた人が支えていた。山の中の飯場に暮らしてあり、買い物をしたりお酒を飲んだり映画を見たりするために新倉の集落にやってくる。突如人口が急増するということ。そう、いつか工事の期間中は既存の駐在所だけでは、警備派出所という臨時の派出所が設けられ、警察官が配備されていた。三里では、現在郷土資料館になっている早川町役場三里支所に巡査が詰めており、「請願巡査」と呼ばれて頼りにされていた。

海はないけど、 鮮魚はあります!

当時、早川町内で魚を手に入れるのは行商さんに頼ることが多かった。そのような中で、新倉には魚を扱う店が3軒もあったという。小売の需要に加え、旅館など卸の需要もあったためである。

現在の南アルプス市から当時新倉にお嫁に来た人は、実家では魚を買いに行くのに片道十分くらい歩かなければいけなかったのに、お嫁に来たら家の何軒か隣が魚屋さんだったのだ。「随分便利などころにお嫁に来たものだ!」と思ったそう。

茶十支店は新倉に残る唯一のお店で、今でも魚を扱っている。

今日は新倉の分水亭田吾作さんと、竹藪亭長五郎さんにお話を伺います。このお名前は芸名なんですよ。何の芸名なんですか？

田吾作、以下「田」：昭和20年代後半から30年代頭くらいにかけて、青年団で芝居をやっていたね。その後、昭和43年に、防火用水兼プールに更衣室を作ろうっていうことになって、その寄付を集めるのと親睦を兼ねてもう一度芝居をすることになったんだ。それで田吾作座っていうのを結成して、一人ずつ芸名を付けたんだ。

長五郎、以下「長」：屋号を使ったり本名から一文字取ったりね。私は顔が長いから長五郎(笑)

田：昔は娯楽も少なかったから。青年団の頃は毎晩練習があって、家にいるより楽しいからみんなくるんだ。女子もいたしね

長：かつらなんか自分たちで作って。

田：照明やなんかの舞台装置は、それこそ東電へ行っているような奴がいるから、プロだわな。

竹藪亭長五郎こと
川口 仁さん
かわぐち ひとし

元教員で自然愛好家。名調子の野鳥の解説にはファンが多い。一時期新倉を離れていたが、ふるさとに戻り、田吾作さんとの名コンビで新倉を盛り上げている。76歳



長：芝居をやれば公民館が一杯になって、田：ご祝儀も、(ご祝儀をくれた人の名前が)壁にずらっと張り出されるくらいでな。

長：他の集落の青年団の連中が来てヤジとばしたり、工事関係者が来てけんかになったり……。

田：田吾作座になってからは、まあ、大人になったし、けんかなんてこともなかったけどな。

長：音楽やる人も多くてね。特にギターは割りに手に入りやすかったし。

田：東電の祭りに出演で行ったりしたよ。人が足りないからっていうんで、よし、お前ドラムを叩けっていうんで。ギター弾く衆(し=ギター弾く人)と一緒に、自称「うまい」人がマイク持って歌って。

長：東電の人がギターに借り出されたこともあったね。お互い行ったりきたりで。

田：舞台も立派だったぞ。紅白の垂れ幕もしてあって。灯りなんてそれこそ専門だ。

長：東電と新倉は関わりも深かったからね。勤めている人も多かったし。

田：東電には購買部もあって、社宅の連中はそこで買い物するんだ。共同で仕入れた鮭なんか売っててね。

長：東電の奥さん連中は着物に割烹着。こっちは「むらやの衆」って呼ばれて、緋だとか、つぎが当たったようなもんペでねえ。田：道のあっちとこっちじゃ違っててなあ。正月も、向こうは新暦、こっちは旧正月(笑)。

当時の賑わいを、地元の方はどう見ていたんですか？

田：今でこそ懐かしいような話をしているけど、その頃は、喧嘩もあったり、そんなに「ありがてえ」っていう感じじゃなかったなあ。

長：商売をしている人は、これがいつま

でも……と思っていたけど、そうでない人はねえ。早く静かにならんかななんて思ったよ。

田：まあ、こんなに(静かに)なるとは思わなかったから(笑)。あのころは夜中までうるさくてかなわない。酔っぱらいが、泊まっていた宿と勘違いして家に上がり込んできたりして。

長：パチンコ屋や居酒屋に入り浸るような人も出てね。家にお母ちゃんがいるのにお姉ちゃんのいる店でお酒飲んでいの方がいいなんてね。

田：(居酒屋の)はるみなんてまあ、今で言やあ風俗営業みたいなもんだわ。

長：実際のところ、地元の人も含めて、良くない影響もあったね。

田：地元の人間もずいぶん東電に勤めたけど、結局、発電所が自動化された時に出ていってしまったしね。

長：でもまあ、悲観的になるだけじゃなくて、ここに住むものだけでも楽しんだりしながら暮らしたいと考えて、今度のお盆にも企画を考えたりしているんだ。

田：もともと田吾作座もそういう趣旨だしな。新倉銀座の昔が戻るわけじゃないし、人間が少ないなら少ないなりにやることやろうって思っているさ。

本日はありがとうございました。

分水亭田吾作こと
望月 賢明さん
もちづき けんめい

田吾作座座長。元役場職員で、在職中から、新倉のみならず各集落のお祭りを写真に収めるなど、地域の歴史を残す活動を行ってきた。詳細な新倉の記憶はまさに生き字引。73歳



■NEXT やまだらけ

19号特集 (10月上旬お届け)

早川の自然に魅せられて 村田雅生の生き方

早川町三里地区にある、野鳥公園をご存じですか。そう、早川町の鳥「ヤマセミ」が見られることで知られる、あの公園です。今回は、その野鳥公園のスタッフ・村田雅生さん特集します。

早川に来て10年。大自然に囲まれて暮らし、野鳥がさえずる森の中で働き、何が覚えて来たのか、そして今何が必要なのか。村田雅生が早川の大自然から受け取ったメッセージを、皆さんにお届けします。

サービス屋商店の名残の岩、藤屋の建物、当時の話を聞いてから改めて歩いた新倉は、また違った顔を見せてくれました。どれも、高度経済成長という日本の大きな変革の中で、新倉が確かにひとつの役割を果たしていた証です。でも、地元の人は意外と冷静にこの賑わいを見ていた様子。目新しいものを楽しみながらも、銀座が消えた後に残ったのは、やはりもともと地元にあった地域のつながりだったというのが印象深いです。

6/24 フィールドミュージアム山村文化体験ツアー 秘境・奈良田の不思議発見！

昨年11月に引き続き、2回目の奈良田文化体験ツアー。今回は、少数精鋭の5名の方々が参加して下さいました。



交流
シーン

さて、午前10時に集合した一行は、まず館長の深沢萬民さんに連れられ焼畑の資料館を見学。続いて、地元のガイド深沢實さんから講義を受け、奈良田文化の基礎をたたき込まれました。

続いて、語り部の深沢文江さんが登場。奈良田独特の方言で、二羽ガラスをはじめ奈良田に残る民話を、参加者のアンコールに応じて何回も語ってくれました。

午後は、白樺会の方々に、生三味線で民謡を披露して頂きました。昼食の奈良田の里名物、鹿肉ほうとうもとても美味しく、大満足の日となりました。

山を覗けば宝の山
やまだらけ

発行元/フィールドミュージアム運営委員会
住所/山梨県南巨摩郡早川町葉袋430 〒409-2727
電話/0556-45-2160 ファクシミリ/0556-45-2268
ホームページ/http://www.town.hayakawa.yamanashi.jp/fm/